

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800644
法人名	医療法人 社団借新会
事業所名	グループホーム 錦
所在地 (電話番号)	度会郡大紀町錦177 (電話) 0598-73-3338
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 12 日(火)

【情報提供票より】 (H20年1月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	500 円~
敷 金	有(70,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1 月 24 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人借新会 小関医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

錦の地域は昔から漁業の町として栄えてきた。特に定置網による鰯漁は盛んであった。地域も漁師町特有の人情の厚い親しみやすい土地柄であり、事業所は昔ながらの町並みにある。近くには母体である法人が経営する医院もあり、地域とのつながりを大切にしながら、人生の先輩として、お年寄りの心を大切に、敬愛の心を持って接するという理念に副いながら利用者と職員が共に過ごす時間を大切にし、和やかな生活が出来るように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善事項の「運営推進会議を早期に開催」については、初回を平成19年10月に開催され、以降2ヶ月毎に1回開催されている。職員間の確実な申し送り、情報伝達に関しては確認後に申し送り簿にサインをし情報を共有している。</p>
	<p>管理者が職員会議で説明し、ケアに関する項目について全職員で評価を行っている。評価の理解と評価を活かした取り組みへの意欲が高い。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域密着型サービスとしての事業所のあり方、地域との交流のあり方の説明や事業内容等の報告、事業所への協力のお願いや意見交換をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や事業所へ訪問された時に問いかけて、意見や要望はミーティングの場で質の向上に役立てるよう話し合っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域のゴミ収集場所の清掃、地域のクリーン運動に参加している。又、学校行事や敬老会等の催し物の見学、散歩時には地域の人と声を掛け合う等地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「(1)人生の先輩として、お年寄りの心を大切にし、敬愛の心を持って接します。(2)残存機能を最大限に活用できるよう援助します。(3)お年寄りには分け隔てなく平等に接します。」を理念としている。	○	介護保険法で新設された、地域密着型サービス(地域住民との交流の下で・・・)の意義を踏まえて、現行の理念を見直すことが無いかな等について管理者、職員共に検討される事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所などに掲示し、毎朝職員の交代時に読み上げるなどをして日常業務において実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のゴミ収集場所の清掃などに参加している。又、学校行事・敬老会の催し物の見学、散歩時には地域のひとと声を掛け合うなどをして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員会議で説明をし、ケアに関する項目については全職員で評価を行い、改善が必要な事項については職員会議などで話し合い改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーは、町福祉課長・家族・区長・老人会会長・婦人会会長・地域包括支援センター職員が参加し2ヶ月に1回開催している。会議では地域密着型への移行に伴うグループホームのあり方の説明や事業内容を報告し意見や協力をおねがいしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回町職員による気功運動の指導を受けたり、時には権利擁護などの説明を聞いたりしてサービスの質の向上に生かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月それぞれ担当者が、手紙、ホーム便り、金銭管理(出納簿のコピー)を報告している。訪問時にも説明し話し合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議(家族は交代で出席)や来訪時に問いかけ意見を聞いている。問題があれば全職員で相談し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ地域の人、顔馴染みの人を雇用し、利用者が不安がったり動揺しないよう支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上と意識強化に努め、県連絡協議会が開催する研修を受講できるよう配慮しているが年間計画などはない。受講者による研修報告は職員会議で行っている。	○	外部研修と内部の伝達研修等職員各自に応じた段階的・計画的な研修の機会を設けるよう努力される事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の同業者とは県連絡協議会の参加で交流を行っている。地域同業者(2箇所)との交流は個々に行っている。	○	サービスの質の向上を目指して積極的な交流を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者とケアマネージャーが自宅を訪問説明、家族や本人には事業所の見学、ときには体験入所をしてもらい、安心して利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は事業所の理念である人生の先輩として敬愛の心を持って接し、共に過ごす時間を大切に、和やかな生活ができるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族などからの情報と日々の声掛けや会話、表情から利用者の意向・要望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意向を聞き、利用者がその人らしく過ごす為に全職員で検討し介護計画を作成している。	○	アセスメントシートに本人と家族や担当ケアマネージャーからより詳しい意向、希望の情報を聴取し記入のうえ、本人と家族の意向、希望が計画に反映されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月に1回利用者の状態変化、状況を知り見直しを行っている。随時に見直しをした記録はない。	○	利用者の健康状態に変化が生じた場合はその都度に、特に変化が無いときでも、定期的(出来れば3ヶ月に1回程度)に新鮮な目で、家族を含めた関係者で計画の見直しをすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ、通院、墓参り、外食、買い物などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族がしている。家族が受診に同行できない場合と協力医の受診は職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていない。事業所の対応については早期から家族と相談し、方針を共有している。	○	ターミナルケアについては事業所が対応できる最大限のケアについて検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お便りを発行するときは本人、家族の了解をとっている。又、面会シートを個票にしたり、重要書類は鍵を掛けた場所に保管するなど、利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活習慣も参考にして、一人ひとりのペースを大切に、希望に副った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員がしているが、食後の片付けは利用者も一緒にしている。近くの法人から時には地元で獲れた新鮮な魚類などの差し入れもあり、食事中職員と共に楽しい会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができる。入浴を拒むひとには言葉かけをして入浴をされるように支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、洗濯、草取りなど出来る利用者一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物には一緒に出かけている。利用者の希望により喫茶・外食、季節によっては弁当を持って出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けない支援をしている。利用者の行動には充分配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	この地域は昭和19年の大津波による甚大な被害を被った。その経験から行政の協力でシュミレーションなどで津波の知識を得て年2回地域の避難訓練にも参加をしており、避難道路などの確認も行っている。火災警報装置、煙熱探知機を設置しており通報の勉強もしている。	○	自治会へ呼びかけをし協力ボランティア協定など検討されたい。又、夜間を想定した訓練も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日三食の食事内容、摂取量が記録されている。しかし、食事・おやつ以外の水分の摂取が確認できない。	○	利用者個々の栄養バランス、必要な水分量については、定期的に栄養士に点検してもらうなど、日々の健康管理に期待する。又、水分は自由に摂取できるよう工夫されることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は明るく、浴室・トイレも清潔である。フロアには利用者と職員が協力して季節を感じさせる貼り絵などが飾り付けてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく清潔で必要なもの、使い慣れた物や好みの物が置かれている。		